

令和4年度 小平市立小平第八学校 学校評価報告書

学校教育目標 学習指導要領に基づき、東京都教育委員会の教育目標及び基本方針、小平市教育振興基本計画を踏まえて教育課程を実施する。「確かな学力、豊かな人間性、健康な体」を基盤とし、コミュニティ・スクールとして、保護者、地域が一体となった学校づくりを目指す。地域に根ざした教育活動を推進することによって、「思いやりがあり心豊かな子」「すすんで社会に貢献しようとする子」「自ら学ぶ創造力豊かな子」「健康でたくましい子」の育成を目指し、教育目標を設定する。◎思いやりのある子 ○よく働く子 ○工夫する子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○保護者や地域社会に信頼され、応援していただける学校
 【目指す児童・生徒像】 ◎思いやりのある子 ○よく働く子 ○工夫する子 ○元気な子
 【目指す教員像】 ○それぞれの立場でよさを発揮し活躍する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

学校評価の各項目において保護者・地域の方から、概ね肯定的な回答を得ることができた。校内研究では、昨年度に習得できたICTの知識や技能を活用し、端末を活用して学びを深める子の育成を目指していく。コミュニティ・スクールとしては、コロナ禍により地域と関わる機会が減少した。どの学年も地域と関わる学習を充実させることで、地域の教育力の活用を充実させていく。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	授業・モジュール・家庭学習等で繰り返し練習させ、小テスト・計算名人検定・東京ベーシックドリルを行い、漢字や基本的な計算を習熟させる。	3	3	＜成果＞・計算名人やモジュールなどで児童の学力を的確に把握することができた。 ＜課題＞・家庭学習の定着が難しかった。なかなか家庭で終わらせ来るのが難しい児童も見受けられた。→家庭と連携を図って原因を探ることで、効果的な方法を見出す。	3	4	・モジュールの時間を有効に使い、結果が出てよかった。 ・家庭学習が難しい児童は、放課後子ども教室の活用を勧めてみてはどうか。 ・学習予定を端末で確認するようになり、自発的に取り組めるようになった。 ・家庭環境や得手不得手により、習熟度に差が出るのは、ある程度やむを得ない。少しずつでも活用し利便性を感じてほしい。	＜成果＞・モジュールの時間は、授業で扱えない部分を補うことができる有効なものであった。 ＜課題＞・人によっては落ち着いて取り組めていない。→個々の児童の特性をつかみ、原因の背景をよく捉えるようにする。
	1人1台のタブレット端末を活用して、個に応じた指導を工夫する。	2	2	＜成果＞・昨年度に比べ、目的をもって活用したり個別指導のために使ったりすることができた。 ＜課題＞・低学年のため、ローマ字が分らず活用できていない。→児童の発達段階に応じた活用の仕方を行う。	3	4	・学習予定を端末で確認するようになり、自発的に取り組めるようになった。 ・家庭環境や得手不得手により、習熟度に差が出るのは、ある程度やむを得ない。少しずつでも活用し利便性を感じてほしい。	＜成果＞・教員も子どもも操作になれ、個別指導や家庭学習で活用することができた。 ＜課題＞・ICTを活用した全体提示の方が多くなった。→児童が活用できるように、校内で作成した活用プランに沿って指導を進めていく。
健全育成	毎月行われる校内委員会やいじめ対策委員会を中心に、組織としていじめ防止の取組を推進し、未然防止・早期発見・迅速かつ丁寧な対応に努める。	4	4	＜成果＞・トラブルが発生した際は学年で情報共有を行い、組織的に行動することができた。 ＜課題＞・聞くことや記憶することに課題のある児童同士のトラブル。解決に時間がかった。→必要に応じていじめ対策委員会を開き、組織的に対応策を考えることで、担任一人で抱え込まないようにする。	4	4	・いじめはからかいから始まる。初めの気付きを大切にしてほしい。 ・トラブルは時を移さずに対処することが肝心である。 ・挨拶は教職員、高学年の率先垂範で定着してもらいたい。 ・教員の目の届かない所で、走っている姿を目にする。	＜成果＞・トラブルが発生した際は、学年や校内委員会で情報共有を行うことで、組織的に対応することができた。
	「挨拶・思いやり・清掃・廊下歩行・外遊び」に関する月目標を設定し、全教員で一致した指導を行う。	3	3	＜成果＞・週番の教員を中心に、学年でも対策を図り、声をかけている姿が多く見られた。 ＜課題＞・はじめは意識をして行動していても、だんだんと行動に移すことが難しくなってくる現状がある。→廊下歩行については、声掛けを続けていく。無言清掃については、きまり自体を見直す。	3	3	・全校朝会での校長、6年生の話は、児童のやさしい気持ちや好奇心を育てていこうと思う。	＜成果＞・朝会時に今週の目標を確認し、指導ができています。 ＜課題＞・挨拶や廊下歩行に関する課題が多く残っているように感じた。→教員が巡回し、走っている児童に、その都度声を掛けて指導していく。水曜日に、教員が教室で児童を迎え、挨拶のよさを広めていく。
キャリア教育	生活・総合的な学習の時間を核として、各教科・道徳科・外国語活動・外国語科・特別活動等の授業において、学年に応じたキャリア教育の授業実践を行う。	3	3	＜成果＞・キャリア・パスポートを使うことで、自己の振り返りと目標を確認することができた。 ＜課題＞・月ごとにしっかりと個人の振り返りを展開し、長・中・短期の目標を考えていけると良かった。→個人の目標の振り返りを行う時間を学級の実態に合わせて取る。	3	4	・各学年で地域と連携した学習活動ができた。 ・コロナ禍にあって実施可能な分野に限定して行うのがよい。 ・地域コーディネーターをもっと活用してほしい。	＜課題＞・コロナ禍において、地域との連携した、地域教材を活用しきれていない。→オンラインを活用するなど、コロナの影響が少ない形での学習活動を考えていく
	ブロック班活動等で異学年交流を計画的に実践していく。	3	3	＜成果＞・昨年度に比べ、たくさん異学年交流の機会を設けることができ、子どもたちも楽しんでいる様子だった。	4	4	・今年度の2年生町探検は連携が上手くできた。	＜成果＞・ブロック活動では高学年の行動を見て低学年も見習うことができています。
コミュニティ・スクール	ホームページの更新を週1回程度、コミュニティだよりは月1回発行、必要に応じて地域教育コーディネーターだよりを発行する。	2		＜成果＞・ChromebookからHP更新が可能になったことがよかった。 ＜課題＞・ホームページの更新が不定期になってしまった。→学年で分担をし、計画的に更新できるよう声を掛け合う。	2	3	・HPは楽しみではあるが、無理なく更新するにはどうしたらよいのか。 ・来年度は、地域コーディネーターとPTAの協力関係を検討している。 ・CSへの教員参加は相互理解のため、続けてほしい。	＜課題＞・HP掲載について、個人情報の確認との兼ね合いが難しい時がある。→児童が映っていない写真を使ったり、文章で児童の様子を伝えたりして、記事を作成する。
	学校経営協議会で出された意見が学校経営に取り入れられているか、発行されるコミュニティだよりの情報を活用する。	2		＜成果＞・忙しい職務の中で、参加くださっている教職員の皆様、ありがとうございます。	4	3	・CSの場で多くの先生と話す機会が増え、学校との距離が近く感じ、情報交換も多くできていると思う。	＜課題＞・学校経営協議会に多くの教員が参加できるようになるとよい。→低・中・高・専科から一人ずつ輪番で参加する。
業務改善	放課後の会議、研修等の精選を行い、授業準備・校務の時間を十分に確保し、事務作業はSSSが代行する。	3		＜成果＞・事務作業はSSSにだいぶ助けられた。 ＜課題＞・放課後に会議や研修等がない、という日がほとんどなく、慌ただしさを感じた。→会議・研修の時間を減らす等、業務改善をさらにに行い、授業準備に充てる時間を生み出す。	3		・ICT機器の継続的利用による効率の向上を目指してほしい。 ・授業準備時間を確保してほしい。	＜成果＞・SSSに印刷などの事務作業を頼むことができありがたかった。 ＜課題＞・休憩時間に会議や職員作業が入ることがあり、他で休憩を取ることが実際にはできていない。→時程を見直すことで、児童下校後の教員の業務時間を確保する。